誰もが抱える悩みをパパッと解決！

福田貴一先生の福が来るアドバイス

一番大切なのは「問いを理解して、正しく答える」こと

早稲田アカデミー
本社運営部長
福田　貴一

問われていることに対して正しく答えなければ、たとえ考え方が合っていたとしても〝マル〟はもらえません。たとえば、算数で「A君の速さを求めなさい」という問題に対して〝B君の速さ〟を答えてしまうと不正解です。しかし、小学生の段階では、〝問題の読み間違い〟をよくしてしまうのです。そこで今回は、そのようなミスの減らし方について考えてみましょう。

問われていることをきちんととらえるために

小3・小4くらいまでの授業では「問われていることに線を引く」という指導を行うことがあります。たとえば、算数の「父の年令が私の年令の7倍だったのは、今から何年前ですか」という問いであれば〝今から何年前〟の部分に、国語の「傍線部に〝日本人は…という傾向をもっている〟とありますが、日本人がそのようになったのはなぜですか」という問いであれば〝日本人がそのようになったのはなぜですか〟の部分に線を引かせるわけです。このような練習を積むことで、自然に問われていることが何かを意識するようになっていきます。

また、お子様から質問を受けたときに「問われていることは何？」というところから始めてみるのもひとつの方法です。何が問われているかを考えていく過程で、正解にたどり着く道筋が見えてきます。

「問いを理解すること」＝「出題意図を理解すること」

「何が問われているのか」ということをしっかりと意識できるようになると、次に「何を答えさせようとしているのか」ということを考えるようになります。中学入試の問題を解くにあたって、このことはとても重要なポイントです。言い換えれば、その問題を作成した出題者の意図を理解するということになります。この考え方ができるようになってくると〝難しい〟と言われる問題に対しても、自分で切り口が見つけられるようになっていきます。

国語の記述などでは、中学校によって求められる力は異なります。同じような内容の問題でも制限字数が倍くらい違うということもよくあります。少ない字数で書かせる学校は端的に表現する力を、多く書かせる学校はしっかりと記述する力を求めているのです。話は少しそれますが、小6受験生に入試過去問題を解かせる目的はここにあります。その学校の出題意図（何を答えさせる問題が多いのか）を事前に把握しておくことで効果的な学習ができるのです。

難関校入試の記述問題において、過去問集の模範解答のような完璧な記述を書き切ることは難しいと思います。そもそも自分の意見を述べさせるような問題の場合、正解はひとつではないこともあります。しかし、完璧な解答を書くことは難しくても、出題者の意図に沿って考えることができていれば、部分点をもらえる解答は作ることはできます。

「なぜですか」という問題

国語・理科・社会の記述問題に、〝理由を問う〟というものが良く出されます。「○○なのはなぜですか」「▲▲の理由を答えなさい」というタイプの設問です。このタイプの問題は、答えなければならない内容がひとつだけではないことがよくあります。理科や社会などであれば、複雑な因果関係をきちんと整理し、理解できているかを確かめるという意図があるのでしょう。たとえば社会の入試問題で「2060年の日本の人口は8700万人になると言われています。この数字についてあなたは〝望ましい〟と思いますか。それとも〝望ましくない〟と思いますか。理由を含めて答えなさい」というようなものがありました。解答を書きはじめる前に、考えなければならない項目が非常に多岐にわたる問題です。日本という国の現状、人口減少が及ぼすさまざまな影響…。もちろん小学生の段階ですべての要素を考慮して、採点者を納得させる記述を書くのは難しいでしょう。しかし、自分が出した結論（望ましい、または、望ましくない）の根拠となる事柄をいくつも考えたうえで、解答をつくっていかなければなりません。

私は「理由を問われたら二段階は考えてみましょう」と生徒に話しています。直接的な一段階目の理由、そしてその背景となる二段階目の理由、そこまで考えて必要な内容を記述するように指導しています。出題者がその問題で何を答えさせようとしているのかをきちんと把握し、それに対して適切な内容を記述するように、ということです。

精神的に成長していれば、出題者の意図を読むことができる

〝学力や能力〟よりも〝精神的な成長度合い〟の方が中学入試の結果に大きく影響を及ぼすと言われることがあります。それは、この〝出題意図の理解〟という点によるところが大きいと思われます。設問の裏に隠された出題意図を読み取るためには、精神的にある程度成長していることが必要です。選択肢問題には、俗にいう〝ひっかけ〟が隠されていることがありますが、精神的に成長している生徒は、普通の小学生であれば素直にひっかかってしまう、その〝ひっかけ〟を見破ることがあります。逆に言えば、出題者の意図を読み取る訓練を続けることで、精神的な成長を促すこともできるようになるわけです。

日常会話を通じてできるトレーニング

問われていることを理解し、その裏に隠された出題意図がつかめれば、あとはそれに対して正しく答えるだけです。ここでポイントになるのは、まず、シンプルに考えてみるということです。国語の記述などであれば、問われていることに対してはじめに核となる答えを考えて、そこに肉付けをしていくという流れです。この考え方は、テストの解答をつくるときだけではなく、日常会話の中でも練習ができます。

たとえば、「あなたが一番大切にしているものはなんですか？」という質問に対して、「ボールペン」という答えを頭の中で用意したとします。ただ、それだけでは〝なぜ大切なのか〟ということがわかりませんから、その理由がわかるように言葉を増やしていくようなイメージです。「大好きなおばあちゃんから、小学校への入学記念にもらったボールペン」…そんな答えができれば合格です。

このようなご家庭での何気ない日常会話においても、〝何を聞かれているのか〟を意識することで、正しい記述を書くトレーニングになるのです。

ブログ 福田貴一の四つ葉cafe 公開中！

中学受験をお考えの小学校3・4年生のお子様をお持ちの保護者のためのブログです。
本社運営部長 福田 貴一

早稲田アカデミーホームページにて公開

中学受験に関するブログを公開しております。このブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関するさまざまな情報をお伝えします。

詳細はホームページをご確認ください。
早稲田アカデミー　検索